

第 1 回 橿原市保育所・幼稚園適正配置検討委員会 会議録

日 時：	令和 2 年 1 月 28 日（火） 10：00～12：00				
場 所：	大和信用金庫八木支店 3 階第 3 会議室				
出席者：	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30px;">委 員</td> <td>天根会長、重松委員、松井委員、佐伯委員、仲川委員、森本委員、柿本委員、大保委員、戌亥委員、松本委員、森嶋委員、井上委員、中井委員</td> </tr> <tr> <td>事 務 局</td> <td>事務局：藤井事務局長、吉田部長、竹本こども官、井原副部長、栗原副局長、北野副局長、辻岡副局長、辻本課長、戸田課長、吉川主幹、上島課長、上田のぶ子課長補佐、長谷川課長補佐、竹田指導主事、井岡指導主事、東浦主査 長大：諏訪氏、依田氏</td> </tr> </table>	委 員	天根会長、重松委員、松井委員、佐伯委員、仲川委員、森本委員、柿本委員、大保委員、戌亥委員、松本委員、森嶋委員、井上委員、中井委員	事 務 局	事務局：藤井事務局長、吉田部長、竹本こども官、井原副部長、栗原副局長、北野副局長、辻岡副局長、辻本課長、戸田課長、吉川主幹、上島課長、上田のぶ子課長補佐、長谷川課長補佐、竹田指導主事、井岡指導主事、東浦主査 長大：諏訪氏、依田氏
委 員	天根会長、重松委員、松井委員、佐伯委員、仲川委員、森本委員、柿本委員、大保委員、戌亥委員、松本委員、森嶋委員、井上委員、中井委員				
事 務 局	事務局：藤井事務局長、吉田部長、竹本こども官、井原副部長、栗原副局長、北野副局長、辻岡副局長、辻本課長、戸田課長、吉川主幹、上島課長、上田のぶ子課長補佐、長谷川課長補佐、竹田指導主事、井岡指導主事、東浦主査 長大：諏訪氏、依田氏				
欠席者	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30px;">委 員</td> <td>米田委員</td> </tr> </table>	委 員	米田委員		
委 員	米田委員				
資料：	資料 01. 橿原市執行機関の附属機関に関する条例 資料 02. 橿原市保育所・幼稚園適正配置検討委員会規則 資料 03. 橿原市審議会等の設置及び運営並びに会議の公開に関する要綱 資料 04. 委員名簿 資料 05. 就学前の保育・教育のあり方と適正配置についての基本方針【概要版】 資料 06. これまでの検討経緯 / 検討対象と本市の現状と課題 資料 07. 今後の検討スケジュールについて 補足資料 01. 橿原市教育施設再配置基本方針【概要版】 補足資料 02. 橿原市学校教育の指導方針【H31 年度】 補足資料 03. 橿原市就学前の保育・教育指針 補足資料 04. 学校区別の園児数推計の方法				
1. 開会	開会挨拶				
事務局	市長は公務のため、到着され次第、ご挨拶いただきます。				
2. 会長選出	委員紹介、会長や代理の選出				
	会長は天根委員、職務代理者は重松委員に決定。				
3. 諮問	本委員会への諮問				
4. 議事	議事				
会長	<p>本日は初回ということもあり、本格的な議論は次回からとし、本日はそれに向けての準備会という発想で捉えてもらいたいと思います。そのため今回の会議は事務局から現状などの説明を聞いて、次回に備えるような会議にしていきたいと思っております。</p>				

事務局	資料説明 【資料 03 榎原市審議会等の設置及び運営並びに会議の公開に関する要綱】
事務局	会議につきましては、榎原市審議会等の設置及び運営並びに会議の公開に関する要綱の規定により、原則公開となっておりますが、いかがでしょうか。また、会議録の形式及び確定方法については、先日同要綱第 10 条第 2 項において、各審議会等の会議において個別に定めると規定されていますので、協議をお願いします。会議録については、主な発言内容をまとめた要約議事録を作成し、公開したいと考えていますが、いかがでしょうか。また、会議録の確定方法ですが、会長と署名委員による確認がよいと考えていますが、確定方法につきましても審議をお願いします。
会長	会議は公開でよろしいでしょうか。 ————— 各委員了承 —————
会長	議事録は要点議事録として公開してよろしいでしょうか。 ————— 各委員了承 —————
会長	議事録の署名人は各委員からの輪番で 1 名と、会長の 2 名で行うことでよろしいでしょうか。 ————— 各委員了承 —————
司会	本日、傍聴の受け付けをしておりましたが、傍聴申請はありませんでした。
会長	公開の参加者はございませんので、議事はそのまま続けさせていただきます。 議事 1) 就学前の保育・教育のあり方と適正配置についての基本方針
事務局	資料説明 【資料 05 就学前の保育・教育のあり方と適正配置についての基本方針【概要版】】
委員	幼稚園の質を担保するために、1 クラス 34 名を維持するという基本方針が示されていますが、子どもたちのより深い交流を行うためや、活性化を図るためなど、質を確保するために必要な最低園児数は示されていますか。
事務局	文部科学省の調査研究の範囲ですが、15 人から 20 人程度という結果は出ています。榎原市としては、34 人を適正な規模として現在考えています。

会長	<p>幼稚園の適正規模はどのくらいかというのは、大学の研究者がいろいろ説を出していますが、地域の状況がそれぞれ異なるため、一概には決められないというのが現状です。なので、地域の状況等を踏まえながら、その地域の子どもにとってどのくらいの規模が最適なのかということも考えていく必要があるのではないかと思います。ただ、先ほどの説明のように、15人から20人というのは、今のところ太い意見として出ているのは確かです。</p>
	<p>議事 2) 本検討に関わる本市の現状と課題について</p>
事務局	<p>資料説明</p> <p>【資料 06 これまでの検討経緯 / 検討対象と本市の現状と課題】</p>
委員	<p>1歳と2歳は保育で、4歳以後は幼稚園ということで理解をしていますが、檀原市において3歳児がちょっと浮いているという形になっているのはなぜですか。「三つ子の魂百まで」という言葉もあり、3歳児が一番大切な時期ではないかと思ったりもします。ちょっとわかっていない部分なので説明をお願いします。</p>
事務局	<p>これまでも、前回の検討委員会の中でもそういった意見はありました。檀原市においては、3歳児の保育については、私立のほうで担っていただいていたという歴史的な経緯があります。その中で、4歳、5歳については幼稚園で、いわばすみ分けが行われてきたという歴史背景の中で来ているというところです。ただし、先ほども申し上げたとおり、幼稚園の国の基準としては、3、4、5歳が対象となっています。</p> <p>また、社会的な要因も変化しており、子どもを預けなかったら働けないというような家庭も増えてきています。そういった社会的な要因の変化から、今回改めて幼稚園での3歳児保育の導入ということも検討してもらいたいという趣旨です。</p>
事務局	<p>十数年前に行われた幼稚園教育についての検討委員会でも協議していただいたなかで、その当時は社会情勢等も考えて時期尚早との結論をいただきました。その結果を尊重させていただいたという経緯がありますが、十数年経っているということで、今回改めて検討していただきたいとのことから、諮問事項にも記載しています。</p>
委員	<p>大体わかりました。</p>
会長	<p>幼稚園と保育所の大きな違いは、幼稚園は文科省所管で3歳以上が対象の教育施設ということ。保育所の出発は、家庭で教育できない人を預かるというところからで、そして就労支援となり、それがさらに今後は、教育として捉えていけないといけないというようにどんどん変化しています。</p>

	<p>時代が変わるなかで就労形態も変わってきていて、そういうところから、保育所、幼稚園というそのものの性質も、法律はあっても中身が変わってきています。</p> <p>先ほどお話がありましたように、ずっと以前に、幼稚園の3歳児保育は、本来は法律的にはすべき時代に、なかなかそこまで手が回らなくて、私学の幼稚園のほうがかつ担をしていた経緯がありました。その関係で以前の検討委員会では時期尚早という結論になったと説明がありましたが、幼稚園として3歳児をどうするか、そういう観点でもう少し検討していこうということで終わっていると思います。</p> <p>そのため、この3歳児保育については今回の皆さん方の一つの議論のテーマとして考えていただく必要があるのではないかと考えています。</p>
委員	<p>説明のなかで3歳児が私立へ行き、4歳、5歳児が公立へ戻ってくる可能性もあると聞きましたが、4歳、5歳児も保育料が無料になると思いますが、私立のまま4歳、5歳も継続して通園する可能性も強くあるということは考えられると思います。ということは、今までの推計以上に公立の幼稚園に戻ってくるという可能性は少ないと考えることが必要だと思いますが、いかがですか。</p>
事務局	<p>確かに、去年の10月から無償化が始まり、来年度の公立幼稚園の入園予定者数も、例年に比べて激減しています。毎年50人、70人ぐらいの減少でしたが、直近の予定入園数は120人ぐらいの減少となっています。委員のご意見の通り、非常に厳しい状況になってきています。</p>
会長	<p>検討としては、幼稚園が今必要なかどうかというところまで最終的に議論しなければいけないかもしれませんが、幼稚園と保育所というのは本質的には質が違います。昔は、幼稚園に行きたかったけれども、行けないから保育所にしようかというような時代でしたが、今は逆で、とにかく保育所へ行きたいという家庭が多いと思います。その分、幼稚園というものの存在価値が薄くなってきており、幼稚園と保育所を同じような内容で、両輪でという話になっても、保護者から見たら、幼稚園のメリットというのは余り捉えられないのが現状ではないかと思っています。なので、これからますます、全国的に幼稚園児が減っていくのではないかというのが私の見方です。当たるかどうかわかりませんが、とにかく社会ニーズに合った就学前教育は何だろうかという観点でこれから整理していく必要があるのではないかと考えています。</p> <p>保育所ではなく、幼稚園に通わせたい人もいるかもしれない。そういう人たちのために、数は少なくとも幾つかは充実したものをつくっていく必要があるのではないかと考えています。そして、保育所の今後については中身の充実を競う時代に入ってきていると思います。人気のあるところはますます待機児童が出る状況が出てくるのではないか。いい意味での競争時代に入っていくのではないかというのが私の見通しです。皆さん方はどういうふうにお考えかわかりませんが、その辺もまたご</p>

	提案いただいたらと思います。
事務局	本日の資料としては用意していませんが、現在、市が策定している子ども・子育て支援事業計画のなかでアンケート調査を行っており、そのなかで幼稚園の良さを感じておられる保護者の方から3歳児保育を望む声が多数あります。保護者のニーズを把握していただけるよう、次回の参考資料としてつけさせていただきます。
会長	樫原市ではそういう市民アンケートを去年もとっているのので、樫原市の市民はこう考えているという上に立って、これからの議論も進めていければと。次回にその要点の部分だけでも示していただいたらと思います。
委員	こういう問題は目に見えて見えないものなので、この検討委員会では方向性を間違ったらだめだと思います。市民がこうやと言うからそうだけというだけでもない。やはり国の施策も見ながら、大きなマスで全体を捉えていくことや、希望を入れてこういう方向性で行くという形も半分必要。だから、バランスが大事であり、方向を間違えないようお願いしたいなと思っています。個人の意見というのはその中にあるのであって、市の方向性というのはいちよつと違うところにある。それで、樫原市はどうあるべきかと、そういう検討になるようお願いします。
会長	10年向こうを見据えて、市民の意向も踏まえて冷静に、第三者的に、とりあえず5年先をどうするか。そういうふうに考えていくことを提案したいと思います。
委員	今後の方向として、民間活用を検討しているとのことですが、その民間活用は、例えば現在の幼稚園の再編にあたって、民間の活用をして経営する、あるいは運営をするということだけを考えているのか、現行の私立と公立をよりいい意味での再編をして、より活性化を図るということまで含んでいるのか、それとも自由に今後のよりよい再編の方向性を検討することを考えているのか教えてください。
事務局	今委員お述べのとおり、こういう民間活用でなければならないと限定した検討は考えていません。例えば指定管理などの方法もあります。ただ、指定管理を行う際には法律上の縛りもあるため、そういったあたりも次回以降資料等示しながら、民間活用の検討について広くご議論いただければと考えております。
会長	検討事項の最後に、民間活力の導入という話がありますが、法をクリアしなければならない部分があります。また、市立の幼稚園については、方向が決まっても実施には時間がかかる話で、これからの中身をどうするのが一番いいかという検討も必要です。そのうえで、奈良市がすでに行ったものの、事業者が撤退しているケースもあるので、市町村、都道府県の状況も少し調べながら、慎重に考えていけばい

事務局	<p>いのではないかと考えています。</p> <p>議事 3) 今後のスケジュールについて</p> <p>資料説明</p> <p>【資料 07 今後の検討スケジュールについて】</p>
会長	<p>議論の進め方としては、事務局案を提案していただいて、それをたたき台にして議論していくという流れになってくるかと思います。皆さんには市の公立幼稚園、保育所だけを考えるのではなくて、私立の幼稚園、保育所も考慮に入れて、そして市の公立はどうあるべきだろうかという発想で考えていただいて、それを持ち寄って、市の案に対して様々なご提案をしていただきたいと思います。</p> <p>ただ、次回については、諮問にかかわる全ては議論できないと思いますので、出せる範囲で、市の提案をいただくということでもよろしいですか。その内容で決まるのではなく、それをもとに、皆さん方のご意見を言うと。もちろん批判ではなくて、こうするよりこうしたほうがいいのではないかとという提案をお互いにしたいと思います。市のほうの提案の原案について前向きに、ご意見をお互いに出し合って、事務局のほうでまとめたものについて具体的なものを計画していただくと、そういう進め方でやらせていただきます。もしも途中で、いや、もっとこうしようということがありましたら、その都度おっしゃってください。</p>
事務局	<p>本検討委員会のスケジュールについてですが、1月から始まり、11月までの5回のスケジュールになっています。また、計画期間では、仮にこれは15年というのを案として出させていただいておりますが、このようなスケジュールになっている理由としては、公立幼稚園の子どもがどんどん減ってきているなかで、幼児教育の無償化が昨年10月から始まったということと、檀原市の15の幼稚園のうち、こども園として運営している5つの園は満杯状態になっている一方で、残りの単独の10園の幼稚園は4歳、5歳それぞれ2クラスずつもない幼稚園が9園となっていること。そういう待ったなしの状況であり、子どもたちの環境をきちっと整備をしていかないといけないという認識のもと、早期に計画づくりを行いたいという思いがあることから本検討委員会のスケジュールとしております。</p>
事務局	<p>資料説明</p> <p>【補足資料 01 檀原市教育施設再配置基本方針【概要版】】</p> <p>----- 市長到着 -----</p>

5. その他	市長挨拶
6. 閉会	閉会挨拶
司会	<p>以上をもちまして、第1回櫃原市保育所・幼稚園適正配置検討委員会を終了させていただきます。</p> <p>次回の委員会は、3月30日（月）か4月2日（木）で調整させていただきたいと思えます。場所等、お時間含めまして、後日お知らせさせていただきますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。長時間ありがとうございました。</p>
会長	<p>できるだけ議論が深められるように、事前に配られた資料がございましたら、よく熟読いただいて、意見をお考えいただき、お持ち寄りいただくと、よろしくお願いいたします。</p> <p>今日はどうもありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">《終了》</p>